

ダイコン新品種 『来夏(らいか)』の特性と 栽培のポイント

雪印種苗(株)
北海道研究農場 広瀬慶多
千葉研究農場 橋谷 功志

はじめに

北海道や高冷地のダイコン産地では雪解けと同時に春ダイコンを播種、次第に高温期に向かう夏ダイコン、夏の暑さが終わる頃には秋ダイコンの栽培でシーズンを終わります。この4~5ヶ月間の期間で地域や天候にあった品種が使い分けられています。

今回は、産地で春ダイコンとしてご愛顧頂いている『晩抽喜太一』、『喜太

一』の後播き作型で特に特性を発揮する品種として『来夏(らいか)』を新発表致しました。本品種は、その品質の高さから一般地・暖地の秋播き品種としてもご利用頂けますので、併せて栽培のポイントをご紹介します。

『来夏(らいか)』の特性

1) 晩抽性

春播きでの抽苔性は『喜太一』に近

い晩抽性で、晩春~夏播きが基本となります。保温資材を併用することによって春播きもできます。

2) 草勢

葉は緑色の中葉、初期生育は良好で、生育後半は気温上昇に伴い草勢がやや旺盛となり、気温下降に従いややおとなしくなります。肥料反応がやや敏感であるため多肥栽培を避け、曲がり根の発生を予防します。収穫期の葉長は38~43cmが目安です。

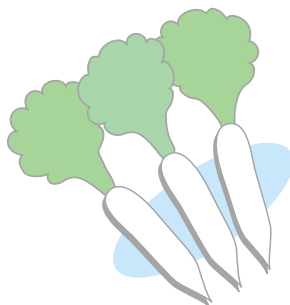
3) 根の特性

根長は36~38cm、根径7.0~7.5cm、根重1.3~1.6kg程度に良く揃います。

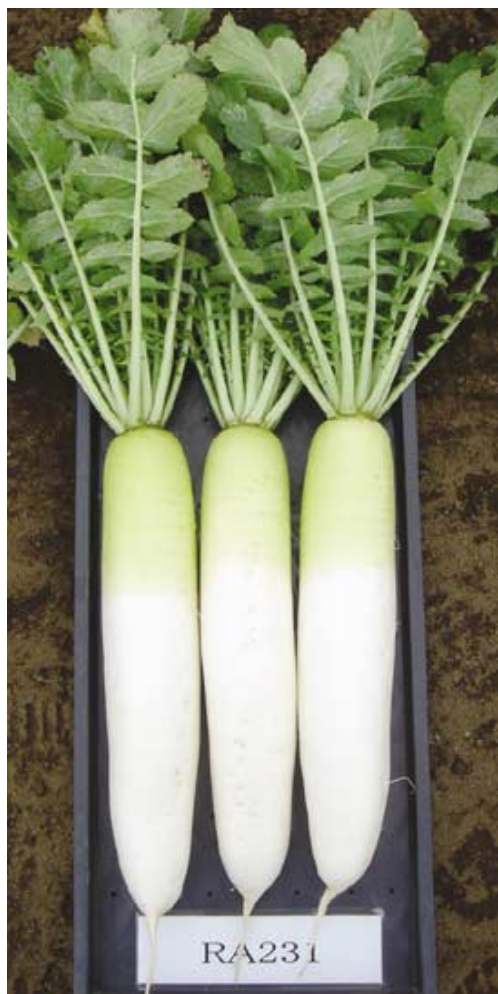
根の肥大はやや早く、適期栽培では播種後55日前後で収穫可能ですが、



『来夏(らいか)』秋播きの根形



『来夏(らいか)』秋播き露地栽培



『来夏(らいか)』春～晩春播きの根形

生育後半の肥大が早いので収穫遅れには注意します。

晩春播きや秋播きなどの低地温でも短根になりやすく、尻つまりも良いボリューム感のある根形に仕上がります。抽根性がやや強いので収穫しやすく、青首と白い根部とのコントラストが鮮やかです。

ひげ根は細く、肌は光沢があり、洗い上がりが極良好です。青首も美しく、秋播きでも高品質出荷が可能です。肉質は緻密で食味は良好です。

4) 生理障害および耐病性

内部障害に強く、赤芯・黒芯はほとんど発生しません。青首の色合いはやや濃いですが収穫適期で青肉が入ることはほとんどありません。す入りも遅く、内部品質は安定しています。



『来夏(らいか)』春播き保温資材栽培

高温期や多雨条件で発生しやすい抽根部（青首部分）の横縞症状も出にくいので、梅雨や秋の長雨を経過する作型でも安心して栽培できます。

萎黄病には比較的強いですが、強度汚染圃場での播種は避けて下さい。軟腐病は比較的出にくいですが、多肥条件を避け、基本的な防除はおこないます。また、近年高冷地を中心に発生が増えている黒斑細菌病に対しては、初期からの薬剤防除を徹底します。

5) 『YR夏蛭』との使い分け

本品種はご好評頂いている『YR夏蛭』と作型が類似しておりますが、『来夏(らいか)』のほうが根長は長めに安定します。播種時期、栽培方法、産地の土質、萎黄病汚染程度などを考慮して使い分けをして下さい。

適作型および栽培のポイント

●次ページ作型参照

<東北・高冷地>

◇べたがけマルチ～マルチ栽培

播種始めは『晩抽喜太一』、『喜太一』の後半の播種時期からが目安になります。晩春播きは抽苔防止のため、べたがけマルチ栽培として地温を上げてから播種します。N-P-K=5～4-10-10kg/10aを目安にします。多肥栽培は軟腐病を助長します。

栽培期間が日照不足、乾燥、高温、豪雨などの悪条件が重なると生理障害や各種病害の発生が懸念されます。圃場選定に留意するとともに、播種前にバランスの良い施肥設計を組み、FT Eなどの微量要素やカルシウム肥料などの散布をおこなって下さい。

地域	作型	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
北海道 道東道北	べたがけマルチ				●	●	■					
	シルバーマルチ				●	●	■					
	露地					●	●	■				
北海道 道央道南	べたがけマルチ				●	●	■					
	シルバーマルチ				●	●	■					
	露地					●	●	■				
東北 高冷地	べたがけマルチ~マルチ			●	●	■						
	露地			●	●	■						
一般地 暖地	トンネルマルチ	●	●	■								
	べたがけマルチ~マルチ	●	●	■								
	マルチ・露地							●	●	■		
	露地(暖地密植)							●	●	■		

■ 『来夏(らいか)』 適作型表

● : 播種期 ■ : 収穫期

マルチの種類は地温上昇に伴い透明、黒、シルバーなどを選定します。

◇露地栽培

地温が充分に上がってから播種をおこないます。高温期の栽培になるのでN-P-K = 4~3-10-10kg/10aと窒素を減らし、生理障害、軟腐病対策も徹底します。

ウイルスが発生しやすい時期なので初期から防除をおこないます。

<北海道>

◇べたがけマルチ~マルチ栽培

道内の各地域での播種適期は作型表を参照して下さい。早播きは抽苔防止のため、べたがけマルチ栽培として地温を上げてから播種します。N-P-

K = 6~5-10-10kg/10aを目安にします。軟腐病など各種病害、生理障害対策は東北・高冷地に準じます。

◇シルバーマルチ栽培

高温期の多肥栽培では曲がりが発生しやすいためN-P-K = 4-10-10kg/10aと窒素を減らします。また、FTEなどの微量元素やカルシウム肥



『来夏(らいか)』 初夏播き露地栽培

料などの散布をおこない生理障害対策を徹底します。

軟腐病など各種病害、生理障害対策は東北・高冷地に準じます。

◇露地栽培

高温期の栽培はシルバーマルチに準じますが、作土層の深い圃場を選定するようにします。

暑さが和らぐ8月以降の播種はN-P-K = 5~8-10-10kg/10 a を目安に、気温の降下に従い窒素量を増やします。

<一般地・暖地>

◇トンネル~べたがけマルチ栽培

播種始めは抽苔の心配がなくなる時期とし、トンネルの後半作型以降を対象とします。N-P-K = 6~4-10-10kg/10a を目安にします。

トンネルによる蒸しこみ栽培は品質低下の原因となるため、早めの換気が必要です。

◇マルチ・露地栽培

秋の早播きは品質低下（曲がり、軟腐病）の原因となるため適期播種を徹

底します。

葉がやや旺盛になるため、基肥は控えめにし、生育に応じて追肥をします。N-P-K = 5~10-10-10kg/10a を目安にして、播種が遅くなるに従って窒素量を増やします。

暖地では1月収穫が可能です。後半の追肥はしっかりおこない、耐寒性を強化します。

原種審査会で特1等受賞！

本品種は平成18年に北海道立十勝農業試験場で開催された第57回全日本そ菜原種審査会「ダイコン」(露地マルチ)審査会で1等特別賞を受賞いたしました。

<栽培概要>

播種日：6月5日

栽植密度：畝幅80cm、株間23cm、5430株/10a

施肥量：窒素6、リン酸8、カリ6(kg/10a)

整畦・マルチ：平高畦、シルバーマルチ

<審査会での『来夏(らいか)』の所感>

播種後に低温寡日照が続き、抽苔・開花していた系統が多い中で、花茎長の伸長が見られず安定した晩抽性を見せていました。また、生育期間の長さで審査会直前に続いた高温のために、赤芯・黒芯等の内部障害が多くの系統で見られましたが、『来夏(らいか)』では内部障害が見られませんでした。

初期の低温寡日照、生育中期~後期の早魃、生育後期の高温と過酷な条件下での試験となりましたが『来夏(らいか)』は本来の特性を発揮することができました。

むすび

『来夏(らいか)』は晩春播きと高温期栽培を中心とする栽培のポイントをしっかりと理解頂ければ、良品出荷ができる品種と考えております。弊社も積極的に普及指導したい所存ですので、何かありましたら最寄りの営業課か営業所までお問い合わせ願います。



『来夏(らいか)』 晩春播きマルチ栽培